

地域福祉計画に係る意見調査票

氏名 情野雄太郎・茂呂美枝子（寺子屋えん）

(1) 孤独・孤立対策について

(例：引きこもり、DV、ケアラー、対面コミュニケーションの減少)

現状：皆様が把握している地域における現状を御記入ください。

- ・地域においては、高齢者の一人暮らし、老々介護状態の家庭が見られる。それらの家庭では、引きこもりのような状態の家庭も見られ、対面コミュニケーションも減少している
- ・DVやケアラーと言った家庭は把握できていない
- ・引きこもりには不登校児が含まれる（不登校児に関しては、次のページで説明）

課題：皆様が考える課題を御記入ください。

- ・引きこもりや不登校の場合は、外に出なくなるため、孤立がどんどん進み、生活リズムが崩れ、心身の健康の面も低下していく

解決策：課題の解決策等を御記入ください。

- ・SNSやITを活用したリモートのコミュニケーション機会の創出
- ・自宅にて、リモートでの学校の授業の実施、出席認定制度の活用
- ・フリースクール・オルタナティブスクールにおける単位認定、出席認定制度の活用
- ・福祉委員などの方による、引きこもりの家庭の情報共有とアウトリーチ訪問
- ・皆が集まり、コミュニケーションや様々な体験ができる「サードプレイス」「居場所」の整備
- ・地域のお祭りなど、楽しく集まれる企画・イベントの開催・復活

事例：事例（御自身の活動も含む）等を御記入ください。

- ・メタバースを活用した仮想空間での居場所（NPO法人ユースサポートネット）
- ・宮代町 みんなの家な学園（オルタナティブスクール）
- ・白岡市 五感で学ぶサードプレイス 寺子屋えん（サードプレイス）
- ・白岡市 菁莪あおぞら会 えんがわそら（地域食堂、イベント開催）

(2) こども・若者への支援について

(例：不登校、高校生・大学生への支援、こどもの居場所づくり等)

現状：皆様が把握している地域における現状を御記入ください。

「寺子屋えん」というサードプレイス活動を通じて、あちこちで、不登校のお子さんがいるという話を耳にします。特に、思春期の中学生に多い傾向があります。引きこもり傾向があったり、自己肯定感の低さから来るメンタル不調も抱えており、場合によっては「死にたい」という気持ちを抱えているケースも見られます。さらには、お子さんの親御さんもメンタル不調だったり、お子さんとの関係がよくないなどのケースも見られます。どちらかが原因というよりも、“家族”という単位で問題が発生し、お互いで影響し合っって悪循環に陥っている傾向を感じます。

課題：皆様が考える課題を御記入ください。

不登校のお子さんがある家庭では、その状態からどうやって一步を踏み出してもらえるか・外に出てもらえるかが課題と感じています。寺子屋えんもまだまだ利用者が少ない。①その存在を知ってもらい、②そこに興味を持ってもらい、③そして家から出て来てもらう、④場所を信頼して安心して過ごしてもらう、この一連のステップは当事者にとっては、かなりハードルが高いのではと思います。このステップにおいても、親御さんも含めて考える必要のある課題であると感じます。親御さんもお子さんに対して悩み心身が疲弊していたり、その居場所への不安・偏見などを抱いていると、親御さんの理解を得る事が難しく、お子さんが利用するまでに至らないケースもあります。

また以前、市内のある学校が「本校に不登校児はいません」という回答したという話も耳にしました。本当の話であれば大変に安心ですが、問題を隠蔽していないかなど、とても心配です。

解決策：課題の解決策等を御記入ください。

お子さんにも親御さんにも居場所に興味をもってもらい、「行ってみたい・やってみたい」というモチベーションを湧き起こさせるような「楽しそう・面白そう」なコンテンツを色々と企画する必要があると思います。特に、「食」に関する企画は「生きること」に直結するため、興味を持ってもらいやすいし、お腹を満たすことで、「幸せ」な気分になりますので手ごたえを感じています。

ただし、企画を色々と考えても、まずは場所の存在を知ってもらうことが重要です。SNS等での発信・チラシの掲示などはもちろん行っていますが、自分達だけではなかなか広がっていきません。行政や社協といった信頼のあるところから、地域の福祉リソース（民間含む）を市民（ファーストプレイス）に発信・紹介いただいたり、教育・子育て関連施設（学校などのセカンドプレイス）に対して情報を共有してもらうなどを行ってほしい。

事例：事例（御自身の活動も含む）等を御記入ください。

- ・白岡市 五感で学ぶサードプレイス 寺子屋えん
- ・宮代町 森の幼稚園
- ・宮代町 みんなの家な学園

(3) 持続可能な地域活動について

(例：支部社協の取組、福祉委員の活動、ボランティア活動等)

現状：皆様が把握している地域における現状を御記入ください。

- ・地域に来て日が浅い者（移住者、賃貸物件居住者など）にとっては、社協の取り組みや福祉委員の活動が見えにくいです。どこに福祉委員が住んでいるのかもわからないため、何か福祉的に困ったことや相談したいことがあっても、そこになかなかたどり着くことができない感じがします。
- ・ボランティア活動については、居住地近くで活動している団体がある場合は、その存在に気づきやすいので、興味あれば参加したいと言えるかと思いますが、近くにないとわからないと思います。

課題：皆様が考える課題を御記入ください。

- ・上記の内容（認知度が低い、どうやってアクセスしていいかわからない）
- ・自治会に入っていないと回覧板も来ないため、チラシなどももらえない
- ・運営観点では、ボランティア活動は運営資金が足りない、運営スキルやリーダーの不足

解決策：課題の解決策等を御記入ください。

- ・回覧板といった紙媒体だけでなく、SNS やメールなども活用する
- ・担当地域の福祉委員さんを一覧などでわかるようにして、すぐに繋がれるようにしておく
- ・活動や環境整備のための助成金、運営についての相談先の設置、他団体との交流機会の創出

事例：事例（御自身の活動も含む）等を御記入ください。

- ・白岡市の LINE による発信はとてもいいと思うので、このようなものを活用
- ・ふれあい・いきいきサロン事業と運営資金補助
- ・ボランティア活動の際は、のぼりを立てるなど、存在を知らせる・見せるようにする